

研究会開催通知

(昭和 53 年 10 月 15 日～11 月 30 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
計算機システムの解析と制御	11月2日(木)	9:30～17:30	京 都 大 学	下記参照
ソフトウェア工学	11月8日(水)	10:00～17:00	機械振興会館	同 上
記 号 処 理	11月14日(火)	13:00～17:00	同 上	同 上
計算機アーキテクチャ	11月14日(火)	9:30～17:10	大 阪 大 学	同 上
計算機アーキテクチャ	11月15日(水)	9:30～16:30	同 上	同 上
データベース管理システム	11月16日(木)	14:00～17:00	機械振興会館	同 上
計 算 言 語 学	11月17日(金)	14:00～17:00	同 上	同 上
人工知能と対話技法	11月17日(金)	15:00～17:00	電 総 研	同 上
イメージ・プロセッシング	11月24日(金)	14:00～17:00	電 波 研	同 上

◆ 第 3 回 計算機システムの解析と制御研究会

(主査：高橋延匡，代表幹事：亀田壽夫，益田隆司)

- 日 時** 昭和 53 年 11 月 2 日 (木) 午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分
- 会 場** 京都大学工学部情報工学会議室
〔京都市左京区吉田本町，市バス：京都駅西口 3 番乗場にて 200 あるいは 200 甲に乗車，京都大学農学部前下車，Tel. 075(751)2111〕
- 議 題** (1) A do-it-yourself input/output scheme for a very large computer system
長谷部紀元，石田晴久（東大・大型計算機センター）
〔概要〕 大規模計算機システムにおける省力化のための，セルフサービスによる入出力方式とそのための OS の機能について検討を行う。
- (2) 大型計算機のための自動運用システムについて
本林 繁，大野美恵，山路英一，堀越 彌（日立・中研）
〔概要〕 科学技術計算を主体とする計算機センタの運用を省力化，自動化するための各種の施策について述べる。
- (3) FACOM M シリーズにおける省力化と自動化
佐 雍 充（富士通・ソフトウェア事業部）
〔概要〕 FACOM M シリーズのハードウェア・ソフトウェアで実現している省力化・自動化の諸機路とその考え方を述べる。
- (4) 大阪大学における無人運転システム
福田一誠，瀬川 滋（日電），藤井 護，高木修二（阪大）
〔概要〕 大阪大学における無人運転システムについて前システム（NEAC

2200 シリーズモデル 700 パッチシステム) における実績と現システム (ACOS シリーズシステム 800 オンラインシステム) における無人運転の実際と、今後に残された問題点について説明する。

(5) オンキョーにおける異種業務の連続夜間無人運転

久岡美弘 (オンキョー)

〔概要〕 オンキョーの ACOS 300 による連続無人運転について、システム設計、無人運転に必要な OS の機能、障害対策、を中心に述べる。

(6) MELCOM-COSMO シリーズの自動運転システム AUTOZAP

沢井善彦 (三菱電機)

〔概要〕 自動運転システム AUTOZAP について、その狙い、特徴および今後の問題点について述べる。

◆ 第8回 ソフトウェア工学研究会

(主査：国井利泰，代表幹事：斉藤信男，大野侑郎，原田賢一)

日 時 昭和 53 年 11 月 8 日 (水) 午前 10 時～午後 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，都営 1 号線大門，都営 6 号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：新橋一汐谷線東京タワー，等々力ー東京駅八重洲口線飯倉 1 丁目下車，Tel. 03(434) 8211〕

議 題 (1) ネットワーク・アーキテクチャの標準化とその問題点

斉藤忠夫 (東大・教育用計算センター)

〔概要〕 1974 年の SNA の発表以来，ネットワーク・アーキテクチャは各社で発表され，さらに世界的な標準化の動きが始まっているが，ここでは，それらを概括し，その問題点を論ずる。

(2) ストラクチャード・プログラミング導入とその効果

松下 温，山崎晴明，高橋恒治，吉田 勇，伊藤良雄

(沖電気・ソフトウェア事業部)

〔概要〕 沖分散解放型ネットワーク体系 (DONA) のソフトウェア構成上の特徴，各ソフトウェア・モジュールの紹介，および，インプリメンテーションにおいて，高級言語 SPL の使用等ソフトウェア工学的に工夫した点について述べる。

(3) ネットワークアーキテクチャの性能解析諸法について

田中光一，柳生和男，関 高明，樫尾次郎 (日立・システム開発研)

〔概要〕 HNA 用通信管理プログラムと連動して，通信制御処理装置，端末等を擬似するシュミレータによる性能解析を中心に述べる。

(4) ネットワークアーキテクチャの観点より捉えたソフトウェア工学への課題

服部光宏 (日電・中研)，島 直，勅使河原可海，

東 基衛 (日電・システム支援本部)

〔概要〕 ネットワークアーキテクチャに基づくネットワークの，最適設計，最適利用などの見地からソフトウェア工学へのいくつかの課題について述べる。

(5) プロトコルの記述方法と検証方法について

河岡 司, 友永充宏, 高橋祥兼 (電電・横須賀通研)

〔概要〕 ネットワークアーキテクチャにおけるプロトコルの厳密な記述とその検証に関する種々の方法を紹介し適用に当たって考慮すべき事項を明らかにする。

◆ ソフトウェア工学シンポジウム開催予告

ソフトウェア工学に関するシンポジウムを情報処理学会の事業の一環として、下記のように開催する予定です。

主 題 「ソフトウェア・ツール*」

日 時 昭和54年2月初旬, 3日間

場 所 機械振興会館

参 加 費 約一万円

プログラムの企画は、ソフトウェア工学研究会が中心になって行っています。関心のある方は、奮ってご参加下さい。

* ソフトウェア・ツールとは何か、その背景にある哲学は何か。ソフトウェア開発の過程において、多数のツールが利用されているが、その実体をあきらかにし、適切な批判と展望とを与える。

◆ 第6回 記号処理研究会

(主査: 淵 一博, 代表幹事: 竹内郁雄, 佐々木建治, 田中穂積)

日 時 昭和53年11月14日(火) 午後1時~5時

会 場 機械振興会館 6階67号室 [所在地は前記参照]

議 題 (1) RATFOR の改良 金田康正 (名大・プラ研)

〔概要〕 東大センターで稼働中の RATFOR の改良を行った。改良にあたって留意した点について述べる。

(2) Algorithms and Programming with CAMs (Content Addressable Memories) 後藤英一 (東大・理, 理研・情報科学)

〔概要〕 CAM とハッシングの関係およびユニークなポインタ表現 GID の概念と有効性について速度・計算量とともに述べる。

(3) Scientific Problem Solving by Symbolic Computation

Anthony C. Hearn (ユタ大・計算機科学)

〔概要〕 計算機による数式処理と数値計算の組み合わせによって、科学の多くの問題が効率良く行えることを述べる。

(4) A Portable LISP Compiler A. C. Hearn (ユタ大・計算機科学)

〔概要〕 標準的な LISP で記述され、特定の機械に依存しない形の効率の良いオブジェクトを出力する LISP コンパイラについて述べる。

◆ 第25回 計算機アーキテクチャ研究会

(主査：石井 治，代表幹事：有澤 博，内田俊一)

日 時 昭和53年11月14日(火) 午前9時30分～午後5時10分

昭和53年11月15日(水) 午前9時30分～午後4時30分

会 場 大阪大学工学部・吹田図書分館 視聴覚ホール

〔吹田市山田上，大阪大学工学部内，交通：阪急千里山線 北千里下車 または北大阪急行，千里中央下車，Tel. 06(877)5111〕

(11月14日)

議 題 (1) 複合計算機システム (ACE) における Concurrent PASCAL マシン
古谷立美 (電総研・電子計算機部)

〔概要〕 ACE システムの上に Concurrent PASCAL マシンを実現した。これは，Concurrent PASCAL プログラムの効率よい処理方式の提案であると共に，マルチプロセッサシステムのソフトウェアを高級言語で実現する。

(2) 試作 LISP マシンのインタプリタのマイクロプログラム化について
瀧 和男，金田悠紀夫，前川禎男 (神戸大・工学部)

〔概要〕 試作 LISP マシンについて，インタプリタの構造と，そのマイクロプログラム化を中心に報告する。

(3) 並列ガーベージコレクションのアルゴリズムと LISP への適用
日比野 清 (武蔵野通研)

〔概要〕 並列ガーベージコレクションとして，1ビットのマーク・ビットと，走査要求フラグを用いて，ロックを少なくしたアルゴリズムを提案し，LISP へ適用した例を紹介する。

(4) マルチ・プロセッサによる LISP マシン
薄 隆，田丸喜一郎，所 真理雄 (慶大・工)

〔概要〕 LISP の処理系をマルチプロセッサシステム上に実現した。LISP の処理は，LISP インタプリテーション，ガーベージコレクション，入出力処理の3つの機能に分割され，それぞれにプロセッサがわりあてられる。

(5) 計算機 MELPIP/1 の並列処理について
金森 直，房岡 璋，平山正治 (三菱電機)

〔概要〕 複合化計算 MELPIP/1 の並列処理マイクロプログラムの具体例と評価を報告する。

(6) 小規模マルチマイクロプロセッサの一方式
阿江 忠，大崎重義 (広島大・工)

(7) 数値計算適用型計算機のアーキテクチャ
一桁落ち自動防止機構を中心として一
坂村 健，中野光一，加藤芳夫，相磯秀夫 (慶大・工)

〔概要〕 桁落ちをアーキテクチャ・レベルで自動的に防止する計算機の構成方法について述べる。

(8) グラフィックス制御システム—PSYCO—

阿草清滋, 久保正敏, 大野 豊 (京大・工)

〔概要〕 高品位のカラー表示を要求する CAD システムを計画している. このためのシステム構成, カラー・ディスプレイ制御用の専用プロセッサについて述べる.

(9) 一次元反復回路による計算の高速化 上林弥彦 (京大・工)

〔概要〕 一次元反復回路で実現された高速加算器の方式を一般化した Unger の手法の問題点として, (1) 同期系列のないものには利用できない, (2) 特定の同期系列しか利用できない等を指摘し, これらの問題を解決した回路の高速化の手法について考察する.

(10) 論理関数を実現するのに必要な論理回路の段数について

安浦寛人, 矢島脩三 (京大・工)

〔概要〕 n 変数論理関数を有限種類の素子集合の上で $0 (\log n)$ 段の組合わせ回路で実現できるような論理関数の集合について, ブール表現中のリテラル数との関連や各種関数族との関係等について述べる.

(11 月 15 日)

(11) 分散設置されたデジタル・システムの運転可能条件

岡本卓爾, 小林稔夫 (岡山大・工), 都倉信樹 (阪大・基礎工)

〔概要〕 一つのデジタル・システムの 2 つのサブシステムに分散設置し, 相互間の論理値転送を双方の側 (サブシステム外) に設けたメモリを介して行う場合の運転可能十分条件について検討した.

(12) ある書式記述言語の設計と作成

住田宏己, 小松 清, 荒木俊郎, 都倉信樹 (阪大・基礎工)

〔概要〕 文献カード, 論文, 表などの書式を記述する言語を設計し, ALGOL 60 へのトランスレータを作成した. この言語では紙面を長方形単位で区分けし, 各長方形の大きさや位置を指定して書式を記述する.

(13) データベースマシンのアーキテクチャ水準

南部 明, 相磯秀夫 (慶大・工)

〔概要〕 データベースマシンにおいて, 外部環境とのインタフェースの設定は, その性能に重要な影響を与える. ここではデータベースマシンのアーキテクチャを論理的側面から考察し, ひとつのアーキテクチャを提案する.

(14) データベースマシンのアーキテクチャとデータ処理方式に関するいくつかの考察 有澤 博 (横浜国大)

〔概要〕 データベースマシンのアーキテクチャの概念的整理を行い, その上にインプリメントするデータモデルを提案する.

(15) データベース・マシンにおけるバッファ管理方式の考察

梅村 護 (日電・中研)

〔概要〕 データベース空間への参照特性の解析と, それに基づいたデータベース・マシンのバッファ管理方式について報告する.

(16) データベース・マシンの同時処理制御

水摩正行 (日電・中研)

〔概要〕 データベースマシンにおけるアドレス変換機構を利用したロック管理方式を中心に、同時処理制御方式について報告する。

(17) 磁気バブルデータベース計算機 EDC のアーキテクチャ

国分明男, 大表良一, 弓場敏嗣, 植村俊亮 (電総研)

(18) 磁気バブルデータベース計算機 EDC の言語インタフェース

弓場敏嗣, 古川康一, 植村俊亮 (電総研)

(19) 磁気バブルデータベース計算機 EDC の制御システム

大表良一, 弓場敏嗣, 宮川正弘, 菅原保雄, 国分明男, 植村俊亮 (電総研)

〔概要〕 (17)~(19)共通

電総研で開発中の、磁気バブルを用いたデータベース計算機のハードウェア、ソフトウェアについて報告する。

◆ 第10回 データベース管理システム研究会

(主査：穂鷹良介, 代表幹事：植村俊亮)

日時 昭和53年11月16日(木) 午後2時~5時

会場 機械振興会館 地下3階2号室 [所在地は前記参照]

議題 (1) 回線管理のデータベース 武田 学 (KDD・総合企画室)

〔概要〕 国際回線管理のため KDD で開発したデータベース「回線ファイル」について、開発の経緯、データベースの構造、運用上の問題等を紹介する。

(2) 北里大学病院におけるメディカル・レコード・データベースへのアプローチ 二宮総蔵, 森田茂子, 藤田忠和, 広門一孝 (北里大)

〔概要〕 北里大学病院を中心とする地域住民150万人を対象とするメディカル・レコード・データベースに関する実験について報告する。

(3) データベース用語について 穂鷹良介 (筑波大・社会工学)

〔概要〕 データベース用語の適切な訳語について、本研究会連絡会、データベース理論研究委員会などで検討した結果を報告する。

◆ 第16回 計算言語学研究会

(主査：和田 弘, 代表幹事：西村恕彦, 長尾 真, 野崎昭弘)

日時 昭和53年11月17日(金) 午後2時~5時

会場 機械振興会館 6階62号室 [所在地は前記参照]

議題 (1) TSS 漢字エディタの設計 荻野綱男 (東大・文学部)

〔概要〕 自作の漢字エディタの使用経験に基づいて、日本語データの校正に必要な漢字エディタの仕様について考察する。

(2) 文章解析のアルゴリズム化への試み 石綿敏雄 (茨城大)

〔概要〕 一つの文でなく、文の連続の解析を行うための基礎として必要なものは何かを考える。

◆ 第 8 回 人工知能と対話技法研究会

(主査：田中幸吉，代表幹事：白井良明，田村進一)

日 時 昭和 53 年 11 月 17 日 (金) 午後 3 時～5 時

会 場 電子技術総合研究所 A 会議室

[東京都千代田区永田町 2-6-1，地下鉄：有楽町線永田町下車徒歩 2 分，丸ノ内線国会議事堂下車徒歩 3 分，Tel. 03(581)0441]

議 題 (1) 意味抽出における概念階層の利用と手続き付加

田中穂積 (電総研・推論研)

[概要] 計算機を用いて日本語の意味抽出を行うプログラム EXPLUS では概念階層を利用している。その構成法と，意味抽出過程を制御するための一手法を説明する。

(2) リモート・センシング画像処理における画像理解の方向

秋田興一郎 (三菱・中研)

[概要] リモート・センシング画像の画像理解について論じると共に，三菱中研におけるカラー航空写真処理を紹介する。

◆ 第 21 回 イメージ・プロセッシング研究会

(主査：尾上守夫，代表幹事：長尾 真，白井良明，高木幹雄)

日 時 昭和 53 年 11 月 24 日 (金) 午後 2 時～5 時

会 場 郵政省電波研究所 講堂

[東京都小金井市貫井北町 4-2-1，中央線，武蔵小金井駅北口下車，京王バス：小平台地行 19 番一電波研究所前下車，Tel. 0423(21)1211]

議 題 (1) シネ左室造影像の解析

谷内田正彦，池田之三，辻 三郎 (阪大・基礎工)

[概要] 雑音の多い動画像の処理方法の 1 例として，シネ左室造影像から心臓壁の境界を抽出し，その時間的变化を計測する方法について述べる。

(2) 電離層観測写真 (イオノグラム) の自動処理

川村真文，吉田 実 (電波研)

[概要] 地上からレーダーによって電離層の状態を観測し，得られた写真データ (イオノグラム) を計算機により処理を行い各種のパラメータを読む方法についての研究の概要。

(3) 電波研究所における画像処理研究

吉田 実 (電波研)

(概要) 電波研における画像処理研究の歴史と現状の概要。

欧文誌の原稿募集について

本年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。

(i) Paper(原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note(2ページ以内に限定)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paperのアブストラクト——200語以内

(ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) オリジナル原稿とコピー3部、計4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

データベース管理 [2色刷]

J. Martin 著

筑波大学教授 穂鷹良介他訳 400頁 定価 4,800円

本書はデータベースを導入あるいは開発を行なうときに考慮せねばならない最も大切なことはなにか、その「原理」が具体例を用いて説明されている。

本書の説明の仕方は常に大局の見地からのものの見方によるもので、データベースを全体の情報処理活動の中でどのように位置づけるかということに力点が置かれている。その意味で考察対象は一般企業の他の情報処理活動にも広がっている。全般的に著者マーチンの永年の情報システムからの経験が語られており、それが鋭いデータベースへの洞察となっている。本書はデータベースの入門書であるが専門家も大いに参考になる意見が随所に見られる。

〔主要内容〕 第Ⅰ部 なぜデータベースか? 企業のデータベース/データの基礎学/データ使用法の種類/柔軟性と独立性/データのいろいろな見方/運営システム対情報システム 第Ⅱ部 データ編成/スキーマとサブスキーマ/木と網構造/関係データベース/ファイルとアドレス付け/探索/分散データベース 第Ⅲ部 データベース/ソフトウェア/データベース言語の型/データベース管理システム/CODASYL型データ記述言語/IBMのDL/I/問合せ言語/データ辞書 第Ⅳ部 経営上の考慮/下部構造/展開/データ管理者とデータベース管理者/安全性とプライバシー/情報の質/経営情報システム/合理システムへの抵抗/むすび:成功のしかた

アルゴリズム+データ構造=プログラム

N. Wirth 著

東工大助教授 片山卓也訳 400頁 定価 3,600円

本書はアルゴリズムの表現手段として近年、教育用・研究用としてわが国をも含めて世界中に急速に普及しているプログラム言語PASCALを用いて、各種のデータ構造に作用する種々のアルゴリズムを構造的プログラミングにより、基本的に重要な各種のデータ構造やアルゴリズムとそのプログラミングが見事に示されている。

並行動作プログラムの構造

Brinch Hansen 著

東京大学助教授 田中英彦訳 350頁 定価 3,600円

本書は、concurrent PASCALを用いてミニコンのモデル・オペレーティング・システムについて体系的に記述しており、これらのプログラムの完全なテキストを収めてある。

高速フーリエ変換

E.O. Brigham 著 東京大学教授 宮川 洋・

横浜国大助教授 今井秀樹共訳 300頁 定価 3,600円

本書は離散的フーリエ変換を高速に演算するアルゴリズム(FFT)について、FFTの概念と応用を系統的に多数の図版をとり入れて具体的な例題により解説したものであり、FFTの基礎的な応用の理解およびそれらの有効な取り扱いをマスターするのに役立つように工夫されている。

有限要素法

K.H. Huebner 著 東京大学教授 山田嘉昭訳

500頁 定価 5,500円

偏微分方程式の有限要素法

A.R. Mitchell/R.Wait 共著

京都大学助教授 森 正武訳 230頁 定価2,800円

本書の目的は偏微分方程式一般の数値解法としての有限要素法を解説することにある。楕円型境界値問題をはじめとして、時間に依存する問題を記述する放物型、双曲型の方程式に関しても非線形の場合も含めて詳しく説明されている。有限要素法の範囲に入るリッツ法、ガレルキン法、最小二乗法等各種の解法を示し、その収束を論じている。また基底関数の構成に関する部分は具体的であり、かつきわめて詳しい。

第1章に1次元問題を中心とした入門的解説がまずあり、第2章に変分原理、第3章にリッツ法、ガレルキン法等いろいろな解法が説明されている。第4章では2次元および3次元問題に実際役に立つ各種の基底関数の構成法を詳細に論じ、第5章で解法の収束性を数学的に論じている。第6章で時間に依存する問題の解法を示し、第7章には最近のトピック、多くの実際の問題とその数値例を挙げ縮くくりとしている。

本書は、有限要素法を実際に使う技術者に十分役立つと同時に、有限要素法を数学として学ぼうとする者の期待にも十分答えてくれるものになっている。

コンパイラ作成の技法

コーネル大学教授 D. グリス 著

九州大学助教授 牛島和夫訳 550頁 定価4,800円

本書は、プログラミング言語のコンパイラの作成技法を徹底的に追及した最も權威のある参考書であり、最も標準的な教科書である。コンパイラの作成技法において理論的研究が一番進んでいるのは、構文解析についてであるが、本書はコンパイラ作成技法として syntax directed method を採用し、内容の三分の一を形式言語と構文解析との解説に割いている。この部分は単に理論の紹介だけにとどまらず、あくまでも作成技法を解説するという目標に沿う様に例を豊富に取り入れ、具体的な解析アルゴリズムの提示まで懇切丁寧に述べている。

一方、実際に動くコンパイラを完成するために必要なそのほかの技法——すなわち、文句解析、記号表の構成、誤りの処理、コード生成、コードの最適化、マクロ機能の実現などについても多くの紙面を割いて、それぞれの技法の詳細な解説を行っている。これらの話題は、ACM 68カリキュラムのコンパイラ作成の科目で指定されているものをすべて含んでいる。これらの技法は、個々の事例に依存する部分が多いため、従来の参考書は一般論を簡単にふれる程度のものが多かったが、本書はこの様な話題を読者が充分納得できるように丁寧に述べている。したがって、本書を通読すれば、コンパイラの構造の全貌がつかめ、具体的なコンパイラを完成するための技法がすべて取得できることになり、その意味で得難い参考書といえる。現場の技術者の実用的な参考書として、また学部・大学院における講義の教科書として、広く活用することができよう。

「情報処理学会論文誌」購読・登録のご案内

1979年1月に現在刊行中の「情報処理」の中から、論文、ショート・ノート、誌上討論など、最新の研究成果を中心とした研究発表の場として、「情報処理学会論文誌」を創刊し、隔月（奇数月の15日発行、B5判、約100ページ）に発行します。欧文誌「JIP」と併せて是非とも購読されますようご案内申し上げます。

論文誌の購読は1月～12月の年間単位とし、購読料はつぎの通りです。

(1) 年間購読料 会 員 4,500 円 } (送料を含む)
 非会員 7,800 円 }

(2) 一般頒布価格 1冊 1,500 円 (送料別)

(3) 中途からの購読料 年間購読料 / 6 × 冊数

なお、購読は本会員の研究者が主体ですので、長期的に継続するものとして取扱います。購読者は以下の事項にご注意ください。

- (1) 購読を中止される場合は、必ず12月中に書面（ハガキも可）でご連絡ください。
- (2) 途中で購読を中止された場合は、すでに送付した論文誌を一般頒布価格で買い取っていただくことになります。

申込みは、別紙購読申込書に必要事項を記入し、代金を添えて「情報処理学会論文誌係」宛お申し込みください。

Vol. 1, No. 1 の予定目次は、つぎの通りです。

論 文

人間による乱数列をマルコフ連鎖としてみたときの特性……………橘 文 夫
Bフレーム・Mフレームを使用したミニコンリスプ FLISP ……………東出 正裕, 他
MLTG—マイクロプログラミング・ランゲージ・トランスレーション・

ジェネレータ……………牧之内顕文, 他
Catalan 数の拡張とその応用……………今 井 貞 三
常微分方程式数値解法的设计……………渡辺嘉二郎, 他
頂点辞書を利用して距離画像解析……………杉 原 厚 吉
ブール行列の乗算アルゴリズムの高速化について……………高岡 忠雄, 他
スパース構造の連立一次方程式に対する Householder 法 ……………平 野 泰 他
ソフトウェア・モニタの方式設計とその応用……………宮崎 正俊, 他
組合せ回路における多重故障の検出……………中 村 彰
マクロ・アセンブラ・ジェネレータの開発……………渡辺 道生, 他
データベース照会システム「ヤチマタ」と名詞句データ模型……………藤崎哲之助, 他

ショート・ノート

マクロコマンドによるソースプログラム生成方式の簡易情報検索システム……………清野 武, 他
紀一誠著“資源切り出し型待ち行列の解析”について……………伊澤喜三男, 他
複素数の累乗根および逆数を求める反復法について……………佐 藤 幸 平